

【(仮) 震災復興・伝承みやぎルート概要】

沿岸地域における漁業・海産物等の魅力を生かしつつ、東日本大震災の遺構や伝承施設等を巡るルート

(宮城県沿岸地域 基幹ルート：約280km

アクセスルートは主要な交通機関や景勝地と基幹ルートを結ぶルート：約90km)



震災復興・伝承みやぎルート of 課題と具体的な取組内容（案）

観点	課題 (現状で不足している項目)	具体的な取組内容（案） ※整備マニュアル（案）：R2、3までに事務局が作成	実施主体 (案)	参照
1.地域ルート 設定	沿岸部の基幹ルートと内陸部にアクセスする地域ルートの設定	地域部会を立ち上げ具体的なルートを検討	地域部会	—
2.走行環境	自転車通行空間の整備 ・ドライバーに対する自転車通行への注意喚起 ・トンネル、橋梁部、急勾配箇所への注意喚起を促す案内表示	沿道状況、自動車交通量、横断構成の状況に応じて整備 整備マニュアル（案）※に基づいた注意看板や路面表示等の設置	道路管理者等	A6 A3
	自賠償保険等の加入を義務（努力義務含む）付け	保険加入の規定を含む条例制定に向け検討中	宮城県	D1
	サイクリストから走行上問題箇所（陥没・突起・草や落ち葉等）の情報収集と、早期対応のための仕組みづくり	連絡先（窓口一本化）を記載したルートマップ作成 該当道路管理者のルートの維持管理（早期補修）	事務局 道路管理者等	C1 D2
	・ルート全線で統一された仕様の設定（設置間隔、分岐部） ・ルート名・経路・起終点及び主要な目的地までの距離の表示と施設への案内	・整備マニュアル（案）※に基づいた案内看板・路面表示の設置 ・インバウンド向けの多言語表記・ピクトグラム表示	道路管理者等	A1 A2
	3.受入環境	主要アクセスポイント（空港・鉄道駅等）における必要な機能（レンタサイクル、観光情報提供等）の整備	ゲートウェイ管理者又は国・県・関係市町等が連携し整備	ゲートウェイ 国・県・関係市町等
	概ね20kmごとに、サイクリストが必要とする機能（トイレ・工具・休憩スペース等）を備えたサイクルステーションを整備	アンケート等により協力の意向等を確認し、サイクルステーション施設を抽出し、施設を整備	サイクルステーション (事務局等)	A4
	代替（あるいは迂回）移動手段、拠点までの回送サービスとしてサイクルトレイン、サイクルバス、サイクルタクシーを設定	アンケート等により協力の意向等を確認し、移動や回送サービスができる交通手段を設定	交通事業者 (事務局等)	B2
	概ね60kmごとに、サイクリストが必要な機能（室内預かり保管等）等を備えた宿泊施設を設定	アンケート等により協力の意向等を確認し、宿泊施設を設定	宿泊施設 (事務局等)	B1
	トラブル発生時の部品販売と修理サービス等の提供	アンケート等により協力の意向等を確認し、サイクルショップ施設を設定	サイクルショップ (事務局等)	B3
	緊急時の連絡先やサポート可能な施設の情報を提供	ルートマップやホームページの管理、運営方針の検討	事務局等	C1 C2
4.情報発信	・ホームページ、SNS、パンフレット等での情報発信（インバウンドに対応した多言語含む） ・サイクリストが扱いやすい情報媒体による情報発信	必要な情報（ルート、走行受入環境等）を整理し、インバウンドの旅行者でも理解でき、持ち運びしやすく水濡れ等に強いルートマップを作成	国・県・関係市町等	C1 C2

震災復興・伝承みやぎルート of 課題と具体的な取組内容（案）のアウトプットイメージ

A：ハード整備

B：ソフト整備

A1 案内看板



A2 路面表示



A3 注意喚起



A4 サイクルステーション



A5 ゲートウェイ



A6 安全・快適な通行空間



B1 宿泊施設の受入れ体制

事例: Onomichi U2 (広島県尾道市 しまなみ海道)



自転車を部屋に持ち込むことができる

B2 サイクルトレイン・バス・タクシー・フェリー等



B3 サポート施設の拡大



C：情報発信・広報

D：体制づくり・その他

C1 水濡れに強いルートマップ



C2 ホームページ



D1 自転車損害賠償 保険加入義務付け



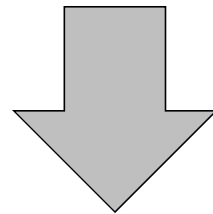
仙台市

D2 ルートの維持管理



○モデルルート名について

提案：（仮）震災復興・伝承みやぎルート



しんさい ふっこう でんしょう
震災復興・伝承みやぎルート